# 禅　　窓

藤田价浩

西芳寺は千二百年前，行基菩薩を開山とする法相宗畿内四十九院のひとつでしたが，平安中期，浄土宗の開祖，法然上人によって穢土寺と浄土寺の二寺からなる西方寺として再興をみました。その後，鎌倉末期，夢窓国師が西芳寺を禅宗として中興，時代の高僧によって，宗旨が三回も変わったという珍しいケースの寺といえるでしょう。昔から自由変転自在，民主主義の一番初めは仏教だと思います。信仰は自由です。在家の方がたの信仰のあり方も，ご本人が勉強なさって信じるなら，キリスト教，仏教の各宗派，神道……何宗を信じやうと自由なわけです。

仏教の各宗派すべての起源は釈尊ですが，禅宗の直接の初祖は達磨大師です。日本に初めて禅が入ってきたのは，西暦六六三年といわれます。

以来禅宗は日本の気候風土などの条件の下，日本的なものへと昇華されながら鎌倉時代そのものを生み出す土壌となりました。特に鎌倉五山，京都五山はその伽藍の文化遺産とともに，禅の心を今に伝え，日本人の生活の中にも，さまざまな形で，禅は生きています。

日本の仏教には，十三宗五十七派あります。うち禅宗は臨済，曹洞，黄檗の三派に分かれています。

しかし，仏教の目的は唯一，みんなが仏様になるといふことです。富士山の登山口がいくつあっても，目指すはただひとつ，富士の頂上―仏教も，これと同じです。

禅はものごとをいちばん率直に受けとめる宗旨です。きれいなものを見れば「きれいだな」青いものを見れば「青いな」と素直に，直観的に受けとめるのが禅宗のいいところです。

私心や雑念をもたない，ありのままにとらえるのです。そのために坐禅を組んで，心の修行をするわけです。大疑団をもってあらゆるものを全部否定した上で，再生するのです。

心はいつも潔めておかねばなりません。心の鏡が汚ければ，そこに写るものすべてが汚くなります。この点，まさに禅は美にも通じるものなのです。

悟りなんて，あるようでないもの，日常茶飯事における動作，喋り方など，身近のあらゆる行動に滲み出てくるものです。人間に「もうこれでで き上がった」なんていうことはありません。

もし「オレは悟った」と高い所にふんぞり返っている坊主がいたなら，それこそ間違いなく似非坊主です。いつまでも衆生のなかにあって，一生修行です。

本来，禅はことばで表現できないものですが，強いていうなら，物事に動じない無邪気な心，即ち，無心とか，無とかいうことになるでしょう。坐禅を組めば，早いか遅いかの違いはあっても，そういう心境には誰でもなれます。これができない人はいません。

しかし修行というものは一朝一夕には成りません。人間が生きている限り終生，何歳になろうとこれ修行，完成しない。未完成なんですが，人間は未完成だからいいのでしょう。

写経参拝にしたのではなくて，させられたのです。一日春季や秋の日の祝祭日には，一万人位の参詣者があったのです。近年になって住居をかまえた人たちから，日常生活があやぶまれる，子供の登校にあぶない事等の苦情のもと，行政も困り果てての上，寺が断を下したのです。

今日では車公害もなくなって，子供達も道路で遊べるような，昔の状態にまでもどっており，地元の人からは高く評価していただいております。

現在のような観光的な寺社のあり方には，ちょっと疑問をもっております。あまりにも安易に寺の経営が成り立っていくばかりが手段であって，本来の宗教活動はどこへやら…これではやはり行き過ぎた方便じゃないだろうかと思います。

観光も宗教活動の一つとして巻がえるのならまだいいんですけれど，それにおんぶしてしまうということは，考えさせられます。写経参拝にして，もはや本年で十年目，苔庭も美しくなり，環境の整備も出来，よかったと思っています。

（藤田价浩＝西芳寺貫主・当センター理事）